

限局型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射による認知機能への 影響を評価する前向き観察研究

限局型小細胞肺癌の患者さんに対して、抗がん剤と放射線療法の併用療法が奏効した場合は予防的に全脳照射を行うことで生存期間を改善することが分かっており、標準的な治療となっています。予防的全脳照射により脳転移の出現を抑え、生存期間を延長することが過去の研究から示されておりますが、一方で予防的全脳照射後の患者さんで認知機能が低下する人がいることも示されています。ただ、この認知機能低下が本当に予防的全脳照射に起因するものなのか、起こるとしたらどの程度の認知機能低下が起こるのか、また認知機能低下を起こしやすい人はどのような人なのかは分かっていません。我が国は欧米に比べて肺癌の患者さんの年齢が高いことから、より認知機能低下が起こりやすいと考えられること、また新しい薬剤の登場により長期の生存期間が望めるようになったことから、予防的全脳照射が認知機能におよぼす影響を明らかにすることはますます重要な課題になっています。

本研究を通じて、予防的全脳照射が認知機能におよぼす影響や認知機能低下が起こりやすい患者さんの背景因子を明らかにすることで、将来の患者さんに、より最適な治療を受けて頂き、QOLの向上を目標としています。

本研究は国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会（臨床研究の実施または継続に、倫理的観点及び科学的観点から、及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。